

## 【 資 料 編 】

|      |                      |     |
|------|----------------------|-----|
| 資料 1 | その他の調査計画 .....       | 資-1 |
| 1.1  | 現況調査（水質[水の汚れ]） ..... | 資-1 |
| 1.2  | 現況調査（地下水） .....      | 資-1 |
| 1.3  | 現況調査（伝承文化） .....     | 資-4 |

## 資料 1 その他の調査計画

「第6章 対象事業に係る環境影響評価の項目ならびに調査、予測および評価の手法」において、事業特性および地域特性等を踏まえて対象事業に係る環境影響評価項目を選定した結果、環境影響評価の対象外とした環境要素のうち、「水質（水の汚れ（BODを除く））」、「地下水（水位・流れ、水質）」および「伝承文化」について、事業実施前の現状把握のための現地調査を行う。

なお、「気象」（風向・風速等）については、大気質の予測・評価を行うための基礎情報となるため、当該調査計画の内容は、「大気質」において記載している。

### 1.1 水質（水の汚れ（BOD 以外））

水質（水の汚れ（BODを除く））の調査手法は表1に示すとおりである。

表 1 水質（水の汚れ（BOD 以外））調査手法

| 項目        | 内容                                                  |                                                                |
|-----------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 調査項目      | 1) 生活環境項目<br>2) 健康項目等<br>3) 有機フッ素化合物（PFOA および PFOS） |                                                                |
| 調査の基本的な手法 | 1) 生活環境項目                                           | 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）等に定める方法                   |
|           | 2) 健康項目等                                            | 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）等に定める方法                   |
|           | 3) 有機フッ素化合物（PFOA および PFOS）                          | 環水大 wat 第 2005281 号に定める方法                                      |
| 調査地点      | 1) 生活環境項目<br>2) 健康項目等<br>3) 有機フッ素化合物（PFOA および PFOS） | 供用後の浸透水の排水先である次郎九郎川および次郎九郎川が合流する田村川の各 1 地点（計 2 地点）とする。（図 1 参照） |
| 調査期間等     | 1) 生活環境項目                                           | 無降雨時 4 回（春、夏、秋、冬）                                              |
|           | 2) 健康項目等                                            | 無降雨時 2 回（夏、冬）                                                  |
|           | 3) 有機フッ素化合物（PFOA および PFOS）                          | 無降雨時 4 回（春、夏、秋、冬）                                              |

注1) 生活環境項目：水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、浮遊物質濃度、溶存酸素量、大腸菌群数、流量を対象とする。

注2) 健康項目等：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン、ダイオキシン類の28項目を対象とする。



図1 水質（水の汚れ（BODを除く））現地調査地点位置図

## 1.2 地下水（水位・流れ、水質）

地下水（水位・流れ、水質）の調査手法は表2に示すとおりである。

表 2 地下水（水位・流れ、水質）調査手法

| 項目        | 内容                                                                          |                                                                                                                             |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調査項目      | 1) 地下水位・流れ<br>2) 地下水質<br>（生活環境項目、環境基準項目（ダイオキシン類含む）、有機フッ素化合物（PFOA および PFOS）） |                                                                                                                             |
| 調査の基本的な手法 | 1) 地下水位・流れ                                                                  | 対象事業実施区域の地下水位について、ボーリング調査で設置した観測井戸の地点で、自記水位計による連続観測を行う。                                                                     |
|           | 2) 地下水質                                                                     | 生活環境項目、環境基準項目（ダイオキシン類含む）：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）等に定める方法とする。<br>有機フッ素化合物（PFOA および PFOS）：環水大水発第 2005281 号に定める方法 |
| 調査地点      | 1) 地下水位・流れ<br>2) 地下水質                                                       | 対象事業実施区域内でのボーリング調査で設置した観測井戸の 2 地点（図 2 参照）                                                                                   |
| 調査期間等     | 1) 地下水位・流れ                                                                  | 1 年間                                                                                                                        |
|           | 2) 地下水質                                                                     | 生活環境項目：年 4 回（春、夏、秋、冬）<br>環境基準項目（ダイオキシン類含む）、有機フッ素化合物（PFOA および PFOS）：年 2 回（冬、夏）                                               |

注）生活環境項目：水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、浮遊物質量、溶存酸素量、大腸菌群数、水温、透視度を対象とする。

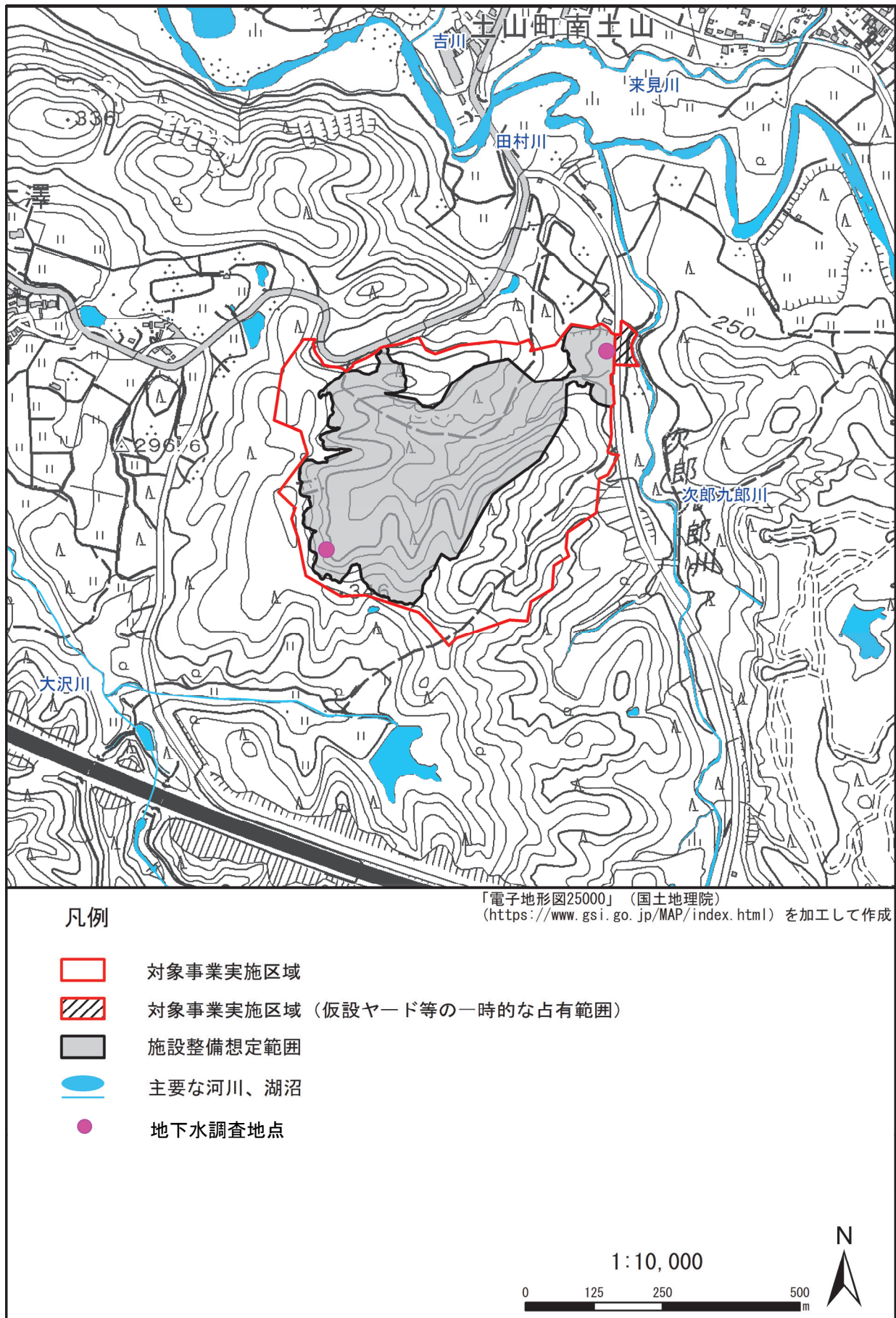


図2 地下水(水位・流れ、水質)現地調査地点位置図

### 1.3 伝承文化

伝承文化の調査手法は表3に示すとおりである。

表 3 伝承文化調査手法

| 項目        | 内容                                                                 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| 調査項目      | 1) 地域に密接に関連する伝承文化の状況およびその歴史                                        |
| 調査の基本的な手法 | 市の歴史文化財行政の窓口や県の文化財保護の担当課、および主要な地域の集落の方へ地域の祭事、儀礼および歴史等に関するヒアリングを行う。 |
| 調査地点      | 対象事業実施区域周辺の集落内とする。                                                 |
| 調査期間等     | 伝承文化の状況およびその歴史の状況を把握できる任意の時期とする。                                   |